



# 同友しずおか

# 12

VOL.457

題字：遠藤 在氏 榛原支部



**私の逸品**  
 おもしろい酒がここにある！  
**(株)しまだ**  
 詳細はWEBで！ (御殿場支部)  
 静岡同友会  検索

全県経営フォーラムin静岡

## 「同友会の学びを実践し、自社と地域の未来を創ろう！」

人を生かす経営全国交流会in千葉

## 「10年ビジョンを持ち、『労使見解』の実践を」

特集

会員訪問記

**鈴木 将大氏** (有)東亜電気工業・伊東支部  
**山田 真実氏** 山田司法書士事務所・富士宮支部

シリーズ

**委員会・部会通信 青山 達弘氏** (株)青山建材工業・広報情報化委員会委員長

その他  
主な内容

経営指針を創る会一泊発表会、支部だより、同友会大学、静岡大学連携講座、会員訪問記、新入会員紹介、友達の輪、イントロセミナー

平成28年度  
重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営の実践で、同友会型企业づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章の精神をいかした中小企業振興基本条例の制定をめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

# 同友会の学びを実践し、 自社と地域の未来を創ろう！

## 第30回全県経営フォーラムin静岡に225名集う

年に一度、全県で学び合う経営フォーラムが11月12日（土）、静岡コンベンションアーツセンターグランシップで開催されました。田辺信宏静岡市長様をはじめ、来賓や行政、大学や愛知・岐阜同友会からもご参加頂きました。今年は5つの分科会に分かれ、参加者の学びをより充実させることに主眼を置き、例年よりもグループ討論の時間を長く設定して行いました。報告・討論共に学びの濃いフォーラムとなりました。本頁では全体の概要を、次頁以降からは各分科会での座長報告と参加会員の感想を紹介します。



今年のフォーラムは静岡支部の設営の下、山村直樹氏と関那積氏の司会で全体会が開会。設営支部を代表して奥谷卓史実行委員長は「今日の学びを実践し、自社と地域の未来を創っていきましょう」と力強い挨拶をしました。

続いて、主催者挨拶で藤原博美代表理事は、第30回の節目を迎えられたことへの感謝の意と共に、中小企業振興基本条例制定の推進、県青年部の発足、経営指針成文化運動、政策委員会景況調査等の同友会運動を踏まえ、「同友会は時代が求める経営のバイブル。忌憚のない意見を交わしあい経営のヒントの一つでも多く持ち帰りましょう」と呼びかけました。



ご参加頂いた来賓、関係機関の皆様を紹介した後、田辺信宏静岡市長、大石勝彦静岡県経済産業部商工業局長、伊東暁人静岡大学副学長よりご祝辞を頂きました。

田辺市長からは「どの組織もトップが目指す以上のものにはなりません。リーダーはどんなに状況が厳しくとも、高い志を持ち続け、目標を語って欲しい」とご祝辞を賜り、私たち中小企業への期待と今後の静岡市の取り組みを語って頂きました。

大石県商工業局長からは、中小企業がより活発な経済活動のできる環境づくりの必要性を前提に、「静岡県中小企業・小規模企業振興基本条例（仮称）についても制定をめざし、具体的な活用施策も考えています」と頂きました。

伊東静岡大学副学長からは、静大発ふじのくに

### 来賓・行政・関係機関出席者

(順不同)

- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 田辺 信宏様 | 静岡市長                           |
| 大石 勝彦様 | 静岡県経済産業部商工業局長                  |
| 伊東 暁人様 | 静岡大学副学長                        |
| 大場 知明様 | 静岡商工会議所専務理事・事務局長               |
| 赤堀 文宣様 | 静岡市経済局長                        |
| 山本 義彦様 | 静岡大学名誉教授・同友会顧問                 |
| 古橋 弘幸様 | 静岡県経済産業部商工業局<br>地域産業課副班長       |
| 藤原 融作様 | 静岡市経済局商工部産業政策課<br>企画係課長補佐兼企画係長 |
| 竹澤 昌利様 | 静岡市経済局商工部産業政策課企画係              |
| 岡田 裕一様 | 富士市産業政策課産業政策担当主幹               |
| 太田 隆之様 | 静岡大学学術院人文社会科学領域准教授             |



創生プランを紹介され、同大と静岡同友会との協力協定の下、「今後も従来にも増した関係を構築していきたい」と語られました。

鋤柄中同協会長の祝電披露後、全体会を閉会しました。その後、参加者は5つの分科会に分かれて学びを深めました。

分科会終了後の懇親会では、冒頭に山本義彦静岡大学名誉教授よりご挨拶を頂き、設営支部長の山田勝幸氏から、参加者へ改めて感謝の意が伝えられました。その後、知久代表理事の乾杯の挨拶後、ステージでは他県からの参加会員、オブザーバー方々が登壇して感想を、そして次年度設営の伊東支部の守谷支部長が次年度への抱負を語りました。閉会挨拶は井上副代表理事が務め、静岡同友会の未来に向けた決意が語られ幕を閉じました。

## 青年部活動で再燃！ 仕事への野心と情熱！

～主体者になったから鍛えられた覚悟～

寺田 卓正氏 (株)ニューウェーブ・青年部

事業内容：来店鍼灸マッサージ治療、訪問マッサージ、腰痛予防セミナー等



### 〔座長報告〕

寺田氏は、青年部活動に関わる中で大きく変わっていきました。貧乏だった個人経営時代、そこから法人化し同友会に入会、そこで学んだと思っていたけれども数字が伸びてこない、社員との関係が上手くいかない、といった経験をしてきました。その中、青年部への関わりがきっかけとなり、主体者意識を持ちます。しかし、主体者となって関わってきたつもりだけで本当の主体者ではなかったということ、全国の様々な経営者と接する中で、改めて気づくことができました。学んできたと思っていたことが、実は学べていなかった、ということに気がついたのです。この経験で寺田氏は大きく変わってきました。しかし一人で主体者になれるかと言ったら、どうしても難しいこともあります。その時に、全国の青年部連絡会に出席したことによって、他県で頑張っている多くの仲間たちがライバルとなり、切磋琢磨していく活動があるということが見えるようになりました。自分が頑張ることが相手にも良い影響を与える、相手が頑張ったことが自分自身にも良い影響となる、それが、自分が変わるきっかけになります。経営者が変わることによって、今まで社内の取り組みがうまく



いかなかったことが大きく変わる、自身の在り方を変えることによって結果として社員が変わってくる。人材育成というテーマはバズセッションの中でも多く出ていたテーマの一つでした。人を変えるためには、最初に経営者が変わる、気づく、どうあるべきかを学ぶ、これが一番重要なことではないかと思えます。また、このように活動するためには、まず同友会に参加する。それもただ参加するだけではなく、積極的に参加して学び、自社での実践を繰り返すことによって、同友会での学びが自社の経営の発展に繋がっていくと思えます。このことが同友会でいう「同友会活動と企業経営は不離一体」です。同友会は学びと実践を絶えず繰り返して行える場です。青年部活動も同様です。寺田氏から、結果は出ていないと話がありました。しかし、この気づきをどう成長させるか、というスタートラインに立っています。皆さんの会社でも、この場の学びを持ち帰り、報告の中から、またバズセッションを通じて何か一つでも学びがあり、自社で実践することができれば、この分科会を設営した意味があったのではないかと思います。



座長 箕 威頼氏  
(有)アサギリ・富士宮支部

## 参加者感想



私は今年4月に入会し、初めて全県経営フォーラムに参加し、有意義な時間を過ごすことができました。まず、会場に入るなり皆さんの熱気に圧倒される感じがすごく印象的でした。

数日前に榛原支部新人研修があり、先輩より「同質の中にいつまでも居ては成長できない、自分より上に飛び込んでいきなさい」というお話がありました。今回の報告でも主体性に触れられていて、経営者としての在り方を考えることの大切さを学びました。寺田氏も青年部会長の重任を受け、全

国の猛者（志の高い人たち）の中に入り、ご自身の志を高めて自社の経営に生かしている、その姿に感銘を受けました。私自身、入会してまだ日が浅いですが、経営指針を創る会にも飛び込み多くの学びや気づきを同友会の仲間から頂きました。そして社員に対する想いや経営者としての覚悟に変化ができました。さらにこれからは同質の中ばかりに居らず、主体性をもって成長し、自身を変え自社の経営に活かしていきたいと思う「気づき」がある報告でした。

田中 有行氏 (株)矢部製作所・榛原支部

## 俺は指針で会社をこう塗り替えた

～指針を創って6年、  
計画通りに進んだ悪戦苦闘の記録～

久高 洋司氏 (株)高栄塗装・静岡支部

事業内容：建築塗装、住宅塗装、鋼橋塗装、鋼橋・橋脚  
耐震工事、防水工事、足場工事

### 〔座長報告〕

久高氏との出会いは、建設労働組合の懇親会の場でした。当時職人だった久高氏は、若い衆を5人くらい連れて参加していました。そのときに私が「若い衆に日当いくら払っているのか」と聞くと「1万5千円くらいですかね」と答えました。その給料は払い過ぎなのではないのかと言いましたが、久高氏はその後も日当を下げることなく払い続けました。



経営指針書を作成し、悪戦苦闘し様々な苦難を乗り越え、会社を成長させてきた久高氏。今日の彼の成功は、組合の懇親会で彼が話してくれた、その言葉の中にあっただのではないかと思っています。若い衆にはいい生活をさせてあげたい、そんな思いが久高氏の中にはあったのかどうかは定かではありませんが、今の成功の物語はそのときに始まっていたような気がします。久高氏は、天性の親分なのかもしれません。しかし良い得意先に恵まれ、そこで常識的な事の対応を求められた時に、自分の仲間たちが今のままではダメだと気付かされたと思います。自身は親方ですからすぐに



変わられても、若い人はそう簡単にはいきません。ましてや職人です。反発を食らい、それまでに経験したことのない「孤独感」を味わったと思います。

私も同友会に入ったばかりの頃、「みんなそのたった一人の気持ちからスタートしているんだ」と先輩から聞いたことがあります。職人は皆、なんにも高栄塗装で働かなくても、手に職があるのだからどこでも食べられるのです。でも、みんな辞めずに高栄塗装で働いています。

私は工務店を経営していますが、お客様からのクレームが聞こえてくるたび、常識的な対応が不可欠だと痛感します。しかし、まだまだ建設業界全体には浸透していません。高栄塗装さんが行ったような社員全体でのマナーの向上や、当たり前の事への意識向上が、業界のイメージアップにもつながると信じています。これは、誰でも実践出来ることではありません。久高氏にはその分野での先駆者にもなって頂きたいと願うばかりです。



座長 遠藤 良二氏

(株)メテックス建築事務所・静岡支部

### 参加者感想



私は今年、経営指針を創る会に参加しています。この夏、全県経営フォーラム開催の案内書で、この分科会の久高氏の発表がまさに今年私が取り組んでいる課題そのものを題材にしていると感じ、即、この分科会への参加を決めたのを鮮明に覚えています。

今回お話を聞いて、認識を新たにしたのは、指針の会でも常々言われていることなのですが、経営指針は創って終わりではなく、実践してこそ価値が生まれる、ということです。会社をよくしていくためには社員の協力が欠かせなく、そのためには社長自身が先頭に立って、様々な問題に対処

していかなければならないのです。久高氏はこれまでの実践例を挙げ、そこには大変な苦労があると思うのですが、当たり前のことを当たり前にやってきたまでですよ、とどこか楽しげにお話されていました。私は、そこに幾多の困難な経験を乗り越えてきた経営者としての自信が垣間見えた気がしました。今回は苦労、楽しみ、自信を体現する久高氏の発表に感銘いたしました。

この後、私は経営指針を創る会の最終合宿に臨みます。指針を作り、それをどのように実践するのか、これまでは想像できませんでしたが、何か、その後続く道が、ぼんやりと見えてきた気がしています。

古川 一郎氏 (株)一電工・三島支部

## もっとお客様に喜ばれる仕事を。 マーケティングが教えてくれた新たな道

津賀 由布子氏 (有)サンディオス・沼津支部

事業内容：広告制作、各種パンフレット、折込チラシ、  
パッケージデザイン

### 〔座長報告〕

私は自分から同友会に入会したため、紹介者も知り合いもなく心細ささえ覚えていました。その時に初めて話しかけてくれたのが、報告者の津賀由布子氏でした。当時はまだお父様が代表であり、津賀氏は事業承継をする予定の立場、というだけでした。しかし当時の彼女は「私自身、理念がはっきりしていなくて、どう進んで行けば良いかわからないんだよね…」と頼りない言葉をこぼしていました。起業をした立場の私からすれば、なんと甘いのだろう、これで大丈夫か、と感じ、実際に問い質したこともありました。

そして社長就任後、三つ子を身ごもった津賀氏。この時「また社長に復帰できるのだろうか」と心配に思ったのですが、これは全くの杞憂でした。三つ子を生んだ「沼津の肝っ玉母さん」は経営者としてより一層強くなって、職場復帰を果たしました。別人のようになった津賀氏。同時に、仕事を任せたら何か楽しいことになるかもしれない、と感じるようになりました。中でも一番変わったのは「自分の信じて疑わない道」を見つけた、と



いう点です。「愛の溢れる会社のメンバーたちと一緒に販促支援していきたい、これが私の進むべき道、(有)サンディオスの進むべき道」彼女の報告にあったこの言葉のように強く思っていれば、同社の繁栄は間違いのないでしょう。

現在、すさまじい勢いで社会や経営環境が変化しています。しかし私たち経営者は、どのような環境変化の中にあろうとも経営を維持し発展させていく責任があります。ただ、何をしてよいのかわからない、と不安を募らせている経営者も多いと思います。そのような方も、この分科会へ参加したことで、何かしらの刺激を受けたのではないのでしょうか。様々な気づきと対峙し、何か、背中を押してもらえたと感じられたのであれば、皆さんにとって良い分科会になったのでは、と思います。



座長 勝又 あすか氏  
(株式会社 榊ぎずな・沼津支部)

### 参加者感想



津賀氏が、お父様が創業した会社に入った経緯から事業承継、そして現在に至るまでの事など、経営者としての仕事や人生に関する内容の詰まった時間となりました。

生きる上で逃せないタイミングというのは必ずあり、それがいくつも重なる頑張り所というのはどうしてもあると思います。そういうのが「節」となり経営者としても人としても「竹」のように強韌でしなやかな体質を作っていくのではないかと感じました。

津賀氏が会社に出られない時期、そして新規事

業に挑む現在、スタッフの皆さんには負荷がかかると思うのですが、会社の危機や挑戦というのはスタッフを成長させ、結果として会社を成長させることになると思います。津賀氏の家族に対する愛、スタッフに対する愛が溢れる話や同席した参加者との話から、私も改めて気づくことがあり、モチベーションの上がる時間となりました。

来年の全県経営フォーラムは伊東支部の設営となりますが、来年も良い全県経営フォーラムとなるようにこれから企画を進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

守谷 匡司氏 (株式会社 榊ぎずな・伊東支部)

## 同友会18年の景況調査から 浮かび上がる経営と地域の課題

今野 英明氏 光誠工業(株)・榛原支部

事業内容：車輛部品（主にサイドミラー）の樹脂、ダイカスト品のコートウレタン塗装

遠藤 一秀氏 遠藤科学(株)・静岡支部

事業内容：科学機器販売（電気計測器、理化学機器、試験機、コンピュータ等）



遠藤 一秀氏(左)、今野 英明氏

### 【総評】

18年間の調査活動のビッグデータをわかりやすく発表してほしいと政策委員会で提起させて頂き、実現しました。会員・行政・大学から約40名が景況調査を学び、討議を繰り広げました。このパワーがあれば大抵の危機は突破できると確信しました。本調査は、企業現場を知っている会員自らがデータを分析・執筆していることに最大の意義があります。集計データだけでは個別企業の経営判断には繋がらないと思われるかもしれませんが、長期的な景況のトレンドが見えれば、自社の立ち位置や事業定義を把握することに役立ちます。1000社強の会内で35%程度が自主回答していることは、会外の様々な調査の中でも最高水準と思



ます。また対象先である会員も、日銀短観の規模層とは違い、中小企業・小規模企業の実態を鮮明に映す精度があるとも言えます。

本県の経済動向を東・中・西の地域別はもちろんですが、今後は市町レベルまで落とし込んで把握できれば、より地域の現実や課題が浮かび上がります。調査活動をこれからも発展させて頂ければ幸いです。その取り組みを持続していくことこそ、皆さんが同友会運動として推進する一つ、中小企業振興基本条例の本当の意義が出てくると思います。中小企業憲章は閣議決定されていますが、憲章に基づいた実行方式は未だ曖昧な部分があります。憲章の精神を実体化させていくため、各県・市町単位で条例制定を推進させることに意味があります。そのためにも地域社会の実状、実態を捉える景況調査の意義を今一度会員の皆さんは再確認頂ければ幸いです。そして日常的に景況調査を見て、主体的に調査活動へ関わる方が増えていけば、同友会はさらに発展すると思います。



総評 山本 義彦氏  
(静岡大学名誉教授・  
静岡県中小企業家同友会顧問)

### 参加者感想



私は沼津支部で政策委員会に属しています。沼津市でも条例制定に向けて動きが活発で、支部役員も出席する3回の協議会を経て来年3月には条例議案が議会可決される見通しとなりました。この条例を自社経営にどう生かせるか、そのあたりを勉強しようとする分科会に参加しました。

中でも大きな収穫になったのは、報告の基調になった「景気動向調査結果」は単発的なアンケート集計ではなく、定点調査を長期間継続することで見えてくる景気や経済のトレンドをつかむこと

ができる、とても優れた分析書であることが理解できたことでした。いままで私は文字とグラフの並んだ厚い「景況調査」にはあまり関心がなかったことを大いに反省し、経営における中長期的な変化をとらえ、“次の一手”を繰り出す参考になると思いました。景況調査報告は、会社の舵取りのための重要参考文献です。

それにしては、調査への県内会員の回答率が33%と低いこと。是非とも調査の有効性と精度を高めるためにも会員の皆さん、調査アンケートには必ず積極的に回答を寄せましょう。

水田 裕文氏 (株)トライ・カンパニー・沼津支部

## エネルギーと食料の 地産地消型の地域社会をめざして

荒木 慎吾氏 スマートブルー(株)・静岡支部

事業内容：太陽光発電システム、蓄電池システム、IH  
クッキングヒーター、エコキュート、HEMS



### 〔座長報告〕

私は4年前、報告者の荒木氏と初めて出会いました。その頃の彼は、まだできたばかりの電気工事会社の番頭でした。建設業という関係柄、私は

同社から太陽光発電工事の基礎工事を頂いたのですが、基礎図面や現地測量は未経験という事で、この頃は当社が全て対応していました。それから1～2か月後、2回目に頂いた現場では荒木氏を先頭に自分達で図面を作り、測量機器を使ってポイント出しをしていました。たった1～2か月での大きい進化にとっても驚いたのを、今でも覚えています。そして、未経験の分野にもチャレンジしていき、時間をかけずに自分のものにしていくというスマートブルー(株)の文化は、その時から既に存在していました。

「電気工事業者が農業の世界へ！」

農業の後継者問題、低収入・重労働で魅力がない、よって次の担い手がない。その社会問題をソーラーシェアリングで救うことができると確信し、全力を注入するスマートブルー(株)。塩原太郎社長と、今回の報告者である荒木慎吾専務が舵



取りする同社は、高い壁にチャレンジする志と行動力、そして何よりチャンスを掴みにいく時は驚くほどのスピード感を持っています。同社顧問の助言を受けてソーラーシェアリングを広げるための組織をつくり、全国で勉強会や説明会を開催。

何がそうさせるのか。なぜ、全国を舞台にそんなチャレンジしていくのか。その核となるのは「農業を変える！農家を守る！」という経営者の決しておれない想い、魂、理念だと、荒木氏から学びました。そして、全社員と理念を共有し浸透させていくことで、同じベクトル、同じ価値観に合わせていける事も学びました。

まさにスマートブルー(株)は同友会で唱える「21世紀型企业」を体現している、見本となっている企業だと、私は思います。



座長 齋藤 寧氏  
(株)齋藤組・静岡支部

## 参加者感想



農業従事者のほぼ6割が65歳以上で毎年10万人ずつ減っている。1反(300坪)の田んぼで米を生産して10万円しか利益が出ない。従って後継者が無く耕作放棄地がどんどん増えていく。

それでも農業を守るのは日本の重要課題です。そのような状況の中、数年前にソーラー発電を手がけていたスマートブルー(株)に、農地の上にソーラーパネルを並べて発電したいという依頼がありました。そこには農林水産省や農地委員会の許可を通らないと設置できないという問題があり、その問題を一つずつクリアしていくことで、設置出来るノウハウが積み上げられてい

きました。全ての顧客の満足を通して、「今様々な問題を抱えている農業者のお役立ちになる」という実感から、農業を支える社会的使命感が生まれたのだと思いました。実際に荒木氏の会社でも何か所か設置し、宣伝を兼ねた実験設備を稼働していて、そこを見学させていただきました。

各種の講演を聴いたり、同友会での報告を聴いた時に感動を覚えることが多々あります。そしてその感動は時間経過とともに薄らいでいくのが常ですが、荒木氏の手がけている現場の見学と報告を聴いての感動は薄らぐどころか私の中で熟成していくような気がしています。

磯野 弘信氏 (有)サンアイ工業・富士支部

# 人を生かす経営全国交流会 in 千葉

## ～10年ビジョンを持ち、 「労使関係の見解」の実践を～

11月17日(木)～18日(金) アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張ホール 参加421名

### 社員の成長と経営者の責任



人を生かす経営とは？労使見解とは？鋤柄中同協会長はじめ実践している方々の経営体験を聞き、今抱えている自社の経営課題を解決するヒントを求めて参加しました。労使見解には8つの項目があります。特に「経営者の責任」「対等な労使関係」が重要です。

経営指針の成文化は経営者の責任として当然のこととして、さらに10年ビジョンを社員と共に作成していくことが企業の発展への大きな力となります。社員と一緒に、10年後どんな会社にしていくのかをとことん語り合い、到達点を明確にしていくことが大事です。社員を本当にパートナーとして成長させたいのであれば、「口を出さない、手を出さない、見続ける」ことが大事。失敗させたくない、成功体験をさせたいと考えるのは社長自身の甘えだとグループ討論で出された意見です。私も今年初めてご縁があって新入社員を迎え入れました。失敗するのは当然です。目先の損失に恐れ失敗よりも成功体験を願って手を出してしまうケースは多々ありました。社員の失敗は社長が補えば良いのです。社員の成長を阻害していたのは社長自身であることに気づかされました。社員と語り合い、見続ける経営者になることを覚悟した交流会となりました。

河合 浩史氏 (板橋工機㈱・沼津支部)

### 人材採用が会社の発展へ



人を生かす全国交流会に初めて参加しました。鋤柄会長、広浜幹事長、加藤愛知同友会会長の3名のパネリストに、中山福岡同友会代表理事のコーディネーターというミスター同友会

豪華メンバーで行われた問題提起。そして50テーブルでの大グループ討論会にて様々な学びがありました。自身、特筆すべきは鋤柄会長の言葉で、「自社の定期採用社員が総社員数の半数を超える頃から会社が変わり始めた。」との話でした。

必要に駆られ、中途採用が常態化しているわが社、グループ討論では、「必要に駆られ、不足した社員を補う採用計画では求職者に対して失礼な話ではないのか？」とのご意見を頂戴しました。定期採用社員を共育し、育てることが会社の大きな力となり、発展につながります。

わが社も次年度に向けた事業計画を作成する時期となっており、人事・採用計画の見直しも含め、今回の学びを会社に落とし込み、労使見解に基づく経営実践に向けた事業の再構築を考えております。

井上 齊氏 (ワシロック工業㈱・静岡支部)

## 支部だより

御殿場例会

### 「A4」1枚アンケート広告作成セミナー

11月9日(水) エピ・スクエア 参加62名

神南臣之輔氏 (有)ブレインチャイルド) を講師としてお招きしました。アンケートと言っても、通常のお客様の満足度や商品の評価を取る為のものではなく、生のお客様の声から自社の広告を作る為のアンケートでした。



神南 臣之輔氏

私たち中小企業家は自社の広告媒体を作成する際、よく「お客様目線で広告を作成しました」と言う事を聞きますが、それは本当のお客様の目線

でしょうか？今回の例会で勉強になったことは、「広告作成の答えはお客様の中にある」という事でした。私たちは日々の業務をこなすうちにお客様の感覚から離れてしまい、本当にお客様が求める情報を広告媒体に載せているかどうか分かりません。今回の例会は、お客様の購入プロセスを分析する事により、自社の広告の発信力を強化するだけでなく、強みや特に力を入れるべき広告媒体を検証できる内容でした。実は弊社も例会前に独自にアンケートを勉強し実際に取ってみました。結果としては想像していた事とだいぶ違う結果が出ました。例会で勉強した分析方法をもとに社内でも共有し早速広告媒体に適用していきたいと思っております。

勝亦 政和氏 (有)静岡開発神場ゴルフセンター・御殿場支部)

## 経営指針の成文化、そして実践への決意

# ～第13期経営指針を創る会～泊修了式～

静岡ホテル時之栖 11月26日(土)～27日(日)

同友会の企業づくりの根幹である「経営指針(理念・方針・計画)の成文化と実践」。開講から13年目を数える経営指針を創る会は今期最終講の～泊修了式(指針発表会)を開催しました。修了式では第13期生の会員11名が、6月から全8講に亘って成文化した経営指針書を同期生、修了生スタッフ、代表理事の前で発表しました。第1講から経営者としての自分を見つめ直し、真摯に議論を重ねてきました。共に本音で語りあう過程で、互いに思いやり、励ましあい、切磋琢磨しあえる仲間という財産が、今年も創る会に生まれました。新たなステージに羽ばたく第13期生を代表して、榛原支部の原崎達也氏から感想と決意が届きましたので紹介します。

### 経営指針を成文化 しかしこれからが本番

受講生とスタッフ・事務局の皆様と約半年間をかけ自社の経営指針を成文化するため取り組んできました。「経営者が、経営者を育てる」、「自分が、自分を教育する」場として、労使見解から始まり、自社事業の在り方・我社の強み特色、なぜお客様はあなたのところに頼むのか、など深く掘り下げ、課題に取り組み、本音の議論をするうちに、自分自身の想いの奥にある会社にとって何が大切なのか、将来に向かって何が必要なのかを気づかされました。経営指針を成文化し、決意表明をし、経営理念・方針・計画が明確になることで、今後の経営の質を向上させることに繋がると確信しました。しかし、本当の課題はこれ



からが本番です。会社と社員がベクトルを合わせ実践していく為に、各々が気づき自分自身を変えていかなければなりません。経営指針を創る会に参加させていただいたことで自分自身、意識が変化しています。まずは、さらに自分自身が大きく変わる為の取り組みをしていきます。

原崎 達也氏 (有原崎工務店・榛原支部)

## ◆同友会大学 第4講座

### 「富士山 その大自然をめぐる」

講師：小山 真人氏 (静岡大学教育学部 教授)  
11月19日(土) 事務局



小山 真人氏

富士山は日本を代表する美しい山。世界文化遺産にも指定され、観光や鑑賞の対象ですが、同時に日本最大の活火山であり、ひとたび噴火すれば、大きな災害をもたらしかねない存在でもあります。悠久の太古からの幾多の噴火により形成され、18世紀初頭の宝永噴火で現在の姿になりました。古くからの文献や地質調査で、噴火による火山灰がどのように飛散したか、また溶岩流や土石流の到達地点などわかっています。研究に基づき、ハザードマップや広域避難計画が策定され、

防災対策は着実に進んでいます。しかし想定外シナリオの検討、噴火警戒レベル判定基準の再検討など課題も多くあるようです。

観光と防災のジレンマの解消も重要なテーマです。この点、講師の小山教授は、「防災の理想郷」としてのジオパークを紹介していました。ジオパークは、大地が育んだ資産を抱える地域が、それらの保全と活用により経済・文化活動を高め、地域社会の活性化と振興に繋げる仕組みですが、これには防災対策も組み込まれています。ジオパークにより地域の自然の知識を深め、これを観光・産業だけでなく防災にも活用することで、災害に強い地域社会を作ることが可能となるのです。

バズセッションでは、自治体の防災担当者と仮定し、富士山噴火という事態に直面してどう行動するか話し合いました。会員の防災意識の向上に役立つ講義となりました。

鈴木 弘之氏 (税理士法人 あい会計・中遠支部)

# 静岡大学連携講座「企業経済特論Ⅳ」



## 第5講 11月2日(水)「建設業の現状と 生き残るチームづくりへの挑戦」 齋藤 寧氏 (株)齋藤組・静岡支部

建設業界で進む高齢化、人手不足やイメージの定着等の業界の現状と課題、経営者になり、100年続く企業のチーム作りを考える中で気付き、変わった事、また、「何か一つでも継続することで自信に繋がる」とご自身の経験をもとに学生に伝えました。

## 第6講 11月9日(水)「新しい発想と技術で模型業界を变革」 望月 保延氏 (有)プラッツ・静岡支部

自社事業の紹介やプラモデルの歴史と静岡の地場産業として育った経緯、業界の動向・特徴について話しました。創業時から国内外問わず出荷しています。望月氏は中小企業の特徴にも触れ、経営だけでなく、人生においても弱みを強みに変えることを意識することが大切であると伝えました。



## 第7講 11月16日(水)「再生可能エネルギーの将来への取り組み」 大橋 徳久氏 (有)大橋商事・中遠支部

現在取り組んでいるバイオガス発電事業について原料や発電、送電までの流れなど事業の構成を話しました。時代の変化に合わせて、事業を展開しています。また、今に至るまでの成功・失敗と感じている事や大学時代の起業経験話し、主体性を持つことの大切さを学生に伝えました。

## 第8講 11月30日(水)「コンクリートブロックの可能性を追求して」 井上 斉氏 ワシロック工業(株)・静岡支部

厳しい業界の中においてコンクリートブロックの本当の価値や可能性を追求する自社の取り組みや、自社の経営計画、自主・自発的社員の育成、人生設計などを、映像を交えながら話しました。その中で、計画を立てる事の大切さ、「自ら積極的に物事に関わっていくことで道が拓ける」ということを学生に伝えました。



## 建設--linkai・Bukai tsushin 委員会・部会通信 第8回

## 広報情報化委員会

広報情報化委員会の仕事は、同友会の「今」を伝えることです。

そのツールとして、この「同友しずおか」という広報誌、ホームページ(<http://www.szdoyou.gr.jp/>)があります。

各支部から1~2名の方が県の広報委員として登録され、支部だより(例会報告)、会員訪問記を担当していただき、記事になっていきます。多くの委員さんが、県の会議には参加できなくとも、各支部での活動を丁寧にしてくださっています。

中同協では、広報誌から機関誌へ、という方針が出ております。単に、お知らせする広報誌から、例会作りまで関わるような機関誌へ、ということです。毎月の支部だよりについては、基本的には、「わが経営を語る」例会を取り上げることにしております。他支部の例会報告により、経営課題が明確にな

り、課題解決に向けての取り組みも参考になり、各支部の例会企画の皆さんの例会づくりの一助になれば、と考えております。

広報の役割として、上記、会内への発信とともに、会外への発信があります。直近では、12月22日10時から静岡市政記者クラブにて、景況調査の速報の記者発表があります。政策委員会主催の発表会の司会を担当しています。

その他、この「同友しずおか」は、各金融機関、行政機関、教育機関に発送させていただいております。

現時点での課題として、組織拡大委員会や共同求人、共育、例会企画、障がい者問題委員会など他委員会との連携を強化していくことがあり、今後、その点を図っていきたいと考えています。

青山 達弘氏 (株)青山建材工業・静岡支部

お問い合わせ・参加申し込みは、同友会事務局まで！ TEL:054-253-6130

感謝の心を忘れずに

(有)東亜電気工業

取締役 鈴木 将大氏 (伊東支部)

事業内容：電気工事一式、太陽光システム施工  
 設立：1990年7月  
 社員数：4名  
 入会：2016年4月  
 所在地：伊東市宇佐美2129-6  
 TEL：0557-47-4075

資格の取得が自信へ

(有)東亜電気工業は父親が設立した会社で、鈴木将大氏は21歳の時に会社に入社しました。入社当初は何もわからず、失敗し、怒られての繰り返しだったとのこと。悔しさをバネに、せめて資格を取らなければと、26歳の時に国家資格である第一種電気工事士を取得しました。資格を取ることで「私でもできるのだ」と自信がついたとのことでした。

取締役に就任

会社を継承するために、28歳の時に取締役に就任。それまでは現場で作業していたので、人を動かすことの難しさを肌で感じました。なかなか思い通りにいか

ず、社員さんとは幾度となくぶつかったそうです。鈴木氏はこのままではいけないと思い、社員旅行を企画するなど一緒にいる時間を増やし、信頼を得て環境を改善していきました。



鈴木 将大氏 (左)

同友会と歩み

鈴木氏は同友会に出会い、人生の先輩方が勉強している姿を見て、今のままでいいのか？このままでいいのか？と、今の自分に疑問を抱くことができました。「私が設計図を作成しているときも、平日に研修を受けているときも社員の皆さんは仕事をしてきています。同友会と出会い、人と出会うことで、陰で支えてくださる人が見えてきた」と語りました。

人として成長していく鈴木氏を見て「将来きっと社員を大切に立派な社長になる」と感じました。

取材・記事：渡邊 啓太氏 (ハッピーライフ・伊東支部)

朗らかな街の司法書士さん

山田司法書士事務所

代表 山田 真実氏 (富士宮支部)

事業内容：不動産登記、商業法人登記、供託手続き、簡易裁判所代理・裁判所提出書類作成、成年後見  
 設立：2013年7月  
 社員数：1名  
 入会：2014年4月  
 所在地：富士宮市宮北町51-2  
 TEL：0544-21-9103

専業主婦から司法書士へ

結婚して専業主婦をしていた山田氏は、夫の勧めもあり、司法書士資格の取得を目指し専門学校に通って試験勉強を始めました。2004年に司法書士試験に合格し司法書士事務所に勤務することになり、2013年7月に独立して現事務所を開設しました。

司法書士の仕事は、法律で「何をどこまでできるか」という範囲が決められており、その範囲内で業務を行っています。

司法書士という仕事

仕事の内容には不動産登記や商業法人登記、簡易裁判所代理や裁判所提出書類の作成、成年後見等があります。近年、不動産登記が少なくなり、利益を追求す

る仕事ではありませんが、司法書士としてできる新しい分野を開拓したいと考え、社会が求めているものに対してアンテナを張って自分の出来ることを模索しています。

また、山田氏は現在、名義人の氏名を毛筆で書きたいという思いから習字を学んでいるとのこと。最近ほとんど印刷の文字ですが、毛筆は印刷にはない人の手の暖かさがあります。この司法書士という仕事に山田氏の込めた想いが感じられました。



山田 真実氏

同友会に入会して

知り合いの不動産業の方からの紹介で、2014年に入会。皆が真剣に経営を考えている姿勢を見て、前述したように司法書士の仕事は利益を追求する仕事ではありませんが、経営を真剣に考えるようになりました。山田氏は同友会の活動の中で、富士宮支部の経営指針委員会に参加し、経営に迷わない真の強い軸を持った経営者を志しています。少人数の話し合いが深い内容となり、会員と接する時間を大切にしています。

取材・記事：金子 佳正氏 (金子石材滝戸・富士宮支部)

## 新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1048名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
あさ だ ひろ ひこ 浅 田 博 彦	浅田博彦経営コンサルティングオフィス 経営コンサルティング (中小企業診断士)	沼 津	長 岡 善 章
あさ はら さと こ 浅 原 聡 子	グリーンカウンセリング ivy 講師、カウンセリング (グリーンケアに特化したカウンセリング、生と死、いのちに関するセミナー講演等)	静 岡	中 村 佐和子
やま した よし のぶ 山 下 佳 敦	(有)山下オート商会 中古車販売整備業 (新車、中古車の販売ならびに車検修理)	榛 原	河 内 崇 文
い い お やす まさ 飯 尾 恭 成	(有)大起商会 建設業 (建具、造作家具、リフォーム等)	浜 松	井 村 圭 吾
すず き しん 吾 鈴 木 慎 吾	鈴木慎吾税理士事務所 税理士業	浜 松	事 務 局

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

## 友達の輪 第33回

前号で望月渡さんから紹介いただいた、原田昌樹 (株)アレミティ・静岡支部) です。障がい者福祉事業を行っております。障がいのある方を弊社で継続的に雇用しながら働く場を提供し、就労意欲を高めながら、自立した日常生活が送れるように支援を行うことを仕事にしています。また、就労意欲の高まった方には、一般就労のお手伝いもさせていただいています。今後は、地域で安心して暮らせるように、障がい者福祉全体の、包括的なサービスが提供できるように運営を行っていかうと考えています。



原田 昌樹氏

同友会入会のきっかけは、志太支部の池原智彦さん (有)池原商会) との出会いでした。会社の立ち上げ当初、社員さんとの人間関係の問題で悩んでいるところ、ある金属屋さんで池原さんと偶然知り合い、ご紹介していただきました。そして、静岡支部の「若葉会」という場に参加させて頂きました。そこでは経営者の方たちが、いろいろな悩みを抱えていて、参加されている方たちと悩みを共有していました。また、いろいろな方向からの考え方や、ストレートな意見、アドバイスなど聞け、とても勉強になると思い、同友会に入会しました。いろいろな人との出会いを大切に、同友会活動をこれからも楽しく行えたら、と思いますので、皆様今後も宜しくお願いいたします。

さて、このバトンを、浜松支部の永田晃士さん (株)ウィリングネス) に渡します。永田さん、どうぞ宜しくお願いします。

原田 昌樹氏 (株)アレミティ・静岡支部)

## 同友会イントロセミナー IN 三島・浜松

11月22日 (火)・28日 (月)

「同友会をもっと多くの経営者に伝えていこう」を合言葉に、組織拡大委員会 (しずおかプラス1) や各支部の設営の下、イントロセミナーが今年度も県内各地で開催されています。11月22日 (火)には浜松支部、同28日 (月)には三島支部で催し、多数の参加会員と共に参加頂いたオブザーバーの内、4名が入会を決めました。



浜松では、鈴木雅夫氏 (株)ハチマル・県副代表理事)、三島では簗威頼氏 (有)アサギリ・県副代表理事) が、同友会の生い立ちや理念を語りながら、同友会での学びを自社経営にどのように落とし込んでいるか、その実践と経験を報告しました。

実践報告では「同友会と私」をテーマに、鈴木克哉氏 (株)ガーデンプラン季風庭・榛原支部) と、土屋恵理子氏 (株)スギナシステム・三島支部) がそれぞれ登壇。経営上の悩みや課題に加え、同友会との出会い、学びを語りました。どちらのイントロセミナーでも、参加した会員だけでなく、オブザーバーの皆様にも同友会をめざす3つの目的 (よい会社、よい経営者、よい経営環境をつくろう) を知ってもらうことができました。

### 同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。